

## 平成29年第5回田布施町議会定例会一般質問通告一覧表

質問者1 國本 悦郎

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
1. 分かりづらい田布施の観光	<p>昨年度から観光拠点と思われる所が、郷土館と観光協会の職員が常駐しているIJU館、それに高齢者いきいき館内の観光情報センターなるもの3ヶ所に分散されてしまった。</p> <p>どこに行けばいいのか、どこを紹介したらいいのかという町民の声が多く聞かれるようになってきた。次のような疑問を多くの人が抱えているので分かる範囲で答えていただきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 どのような経緯で、このように3ヶ所に分散されたのか。</li> <li>2 観光情報センターが新たに設置されたが、その役割は何なのか</li> <li>3 観光協会が孤立した状態で、しかも管理運営できないIJU館に常駐させているのはどういう理由によるものなのか。観光情報センターに観光協会の事務局を置いて、2ヶ所体制にはできないものか。</li> </ol> <p>次に、夏の風物詩の一つに数えられていた夏の一大イベントであった「はぜろう祭り」が昨年から突如中止されてしまった。今年も復活の兆しは見えない。何らかの手立てができなかったものかと残念に思う。</p> <p>そこで、町が直接関与することではないかもしれないが、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 昨年の中止になったという措置についての町としての見解を問う。</li> <li>2 規模を縮小してでも復活するように、これまでの主催者団体、観光協会、商工会に働きかけるつもりはないか。</li> </ol> <p>観光パンフレットでいえば、ライオンズクラブ発行の「歩こう田布施ルート8エイト7セブン」が廃版になって久しい。</p> <p>経済課と観光協会が発行していたA4版の観光パンフレットも増刷していないから、1年前から姿を消してどこにも見当たらない。その後、観光協会から「見て歩記MAP」が出され重宝していたが、このパンフレットも今は増刷されてなく、どこにも見当たらない。</p> <p>郷土館には、郷土館のパンフレット以外に、柳井と平生を網羅した広域の古墳を巡るマップがあったが、廃版となり、館長お手製の古墳地図が作られているだけで、それには古墳の説明文はない。</p> <p>こういったように、観光地や史跡が説明してあるパンフレットがない状態では、とても田布施の観光はアピールできるものではない。そこで、早急に現状を打開するために、次のことについて、お答えいただきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 パンフレットがない現状を町としてどう考えているか</li> <li>2 経済課と観光協会の連携で補助金を出してでも、「見て歩記MAP」の改訂版は出されないものか</li> <li>3 古墳地図はお手製でお茶を濁すのではなく、印刷所に回して各古墳の説明を含めたパンフレットの作製はできないものか。また、古墳地図を石走山古墳の側に置き、駐車スペースをとろうという話はこれから先進めるつもりはあるのか</li> </ol>	町長 教育長
2. 教育活動の公開を	<p>学校や保育園は地域の一大文化拠点であり、地域で支援すべきものとも思っている。</p> <p>また、いろいろな活動や情報はオープンにし、広く公開すべきものとも思っている。</p> <p>町内の各学校では、学校だよりを出し、それぞれHPをもって教育活動などの情報を発信している。</p>	教育長

	<p>私は、時折町内の各学校のHPを拝見させてもらっている。</p> <p>以前は、どの学校も更新することが減多になく、古いままのページが散見することが多かった。今年度は、夏休みに入って、時間的余裕ができたのか、各学校のHPを覗いてみると、学校の基本データや行事予定、学校だよりなどは更新されていたが、何か物足りなさを感じる。いきいきとした教育活動や子どもの様子が見えない学校が多い。どうも学校間に格差がみられるようだ。</p> <p>保護者だけでなく学校を支援してくれている地域の人にもHPをアピールしようと思えば、それなりのものをアップできるように担当者だけでなく、学校としてのバックアップ体制も必要ではないかと思う。</p> <p>教育活動をHPで公開すればそれで事足りるかといえば、そうでもない。他に教育活動を地域の人に知らしめる手段が必要ではないかと思う。</p> <p>そこで、HPの充実と地域への広報活動について質問したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 各学校でHPの新しい担当となってもすぐにアップができるマニュアルはあるのか</li> <li>2 HPの学校間格差をなくすために、企画課のHPの担当者を交えての研修や学期に一度でもいいから担当者同士の研修はできないものか。</li> <li>3 子どもの写真をアップするために、保護者に同意書をとっているのか</li> <li>4 公民館などの町の施設に学校情報コーナーを設け、当該地域だけでなく町内すべての学校の学校だよりや行事予定表、学校公開日の案内などの掲示はできないものか</li> </ol>	
--	--	--

質問者2 松田 規久夫

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
1. 課税客体と都市計画税	<p>都市計画税は課税するかどうかを地方団体の判断に委ねられている任意税である。地方税法に「都市計画法に基づいて行う都市計画事業又は土地区画整理法に基づいて行う土地区画整理事業に要する費用に充てるため、(中略)都市計画税を課することができる。」とある。</p> <p>なぜ、田布施町には都市計画税があるのか以下質問する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 任意税である都市計画税を導入した理由と時期。</li> <li>(2) 県内、国内の都市計画税の導入状況。</li> <li>(3) 上限0、3%の制限税率があるが、田布施町の税率、年間収入金額と一世帯がおよそ支払う都市計画税額。また、県内他市町の税率状況。</li> <li>(4) 市街化区域に住む町民には単なる増税の思いがある。この税は具体的にどのように使われているか。</li> <li>(5) 目的税である都市計画税は一般会計の中で用途が管理されているか。健康保険会計、下水道会計のように別会計にする必要はないか。一世帯が年間およそ支払う国民健康保険税額、下水道使用料金額。</li> <li>(6) 税徴収エリアの見直しは過去にしたことは、あれば、その理由と今後の予定は。</li> <li>(7) 各自治体が手厚い住民サービス提供・支援競争となっている。新たな住民支援でなく、この税をやめて、他の自治体との違いをアピールする方法もある。税源確保のためふるさと納税を頑張らねばならない。</li> </ol>	町長

2. アピールできる教育環境	<p>教育環境は素晴らしい。西田布施地区の保育園は統合となるが、それでも、町内5地区に幼稚園、保育園がある。麻里府小は児童数の減少により麻郷小に統合となったがスクールバスで通学でき、飛地の小行司地区を含め、ある面、各地区に小学校が存在すると言えるかもしれない。約50km<sup>2</sup>のほぼ中心に中学校はあり、飛地を除けば、自転車通学は可能だ。一番アピールできるのは最近まで高校が2つあったこと。平生町との境に普通高校があり、これは0.5とカウントでき、農・工が統合され1つとなったが、現在の田布施町には高校が1.5ある計算だ。高校生の自転車通学可能圏に、普、農、工、商の全てあり、JRを利用すれば多少時間は必要だが、学生は自力で商船、高専の二校にも通学は可能である。この様に田布施に在住すれば学校選びの進路選択肢が多く、18歳までの教育環境は素晴らしいと断言できる。現状を述べたが、このまま少子化がもっと進めば熊毛南高校は、伝統は柳井高校より古いにもかかわらず、統廃合の対象となり近隣の高校数の0.5が無くなる可能性が高い。地域活性化のためには公民館と学校は財政が許す限り、私は存続させなければならぬと考えている。今のままでは熊毛南高校の募集定員が減少していき、将来は柳井高校に統合となるだろう。その対策としては、旧高森高校のように中高一貫校しかないと思う。田布施中と平生中の両町の二校が熊毛南高校の中高一貫校となれば存続できると考えられる。一貫校になれば高森高校のように、学力レベルの上昇も期待できる。町長、教育長、県に対して熊毛南高校存続の要望をお願いしたい。</p>	町長 教育長
3. 所有者不明土地対策	<p>所有者不明の不動産は都市部でも問題化している。今、地方でも早急な対策が求められている。新たに所有者不明の土地をださない、不明の土地はどう活用するか取り組みが必要だ。村議会が成り立たなく、議会の廃止が検討される時代である。限界集落も国内には多数あり、集落消滅発生も今後は増加する。人が住まない地区なので、行政は何ら関わらない方法もあるが、全く利用されない不動産でも固定資産税がかかる。自然災害の備えも要する。かつて土地は価値の源泉だったが、人口減少が本格化する中で重荷となり、放置されたままの資産が随所に出現している。人口減少に比例するように、放棄された土地、家屋の持ち主が分からない所有者不明の存在が今後も増加しそうである。みんなで知恵を出し合い、ベストでなくベターでよいから対処していきたいものだ。</p>	町長

質問者3 西本 篤史

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
1. まちづくり課を新設してはどうか	<p>先日、佐賀県みやき町に行政視察に行き驚いた。全国人口減する中この町は2013年に転入超過している。転入者続々のワケは子育て支援宣言のまちづくりにある。みやき町まちづくり課では、婚活パーティーや婚活支援セミナー、空き家対策事業、子育ての悩み、住まいの悩み相談。人口減少に歯止めをかけるために、定住総合対策を実施。子育て支援をはじめ、住宅対策にも積極的に取り組んでいる。「婚活女子セミナー&amp;大人女子会」、ママカフェでは、「すぐできる！簡単お片づけ講座」。小中学校にエアコン設置。地域優良賃貸住宅制度を利用した定住促進住宅整備PFI事業の促進などを行っている。また、民間に委託したコールセンターで営業代行業を全国展開し利益を上げ、ふるさと納税額も億を越えるなど地方創生の見本のようで、全国から視察が絶えないそうだ。この全体の事業を視ているのがまちづくり課である。各課の意見をまとめ町民に発信し、町民の意見を</p>	町長

	各課に伝える。これからの時代、まちづくり課が必要と思うがどうか質問します	
2. 子育て支援のまちづくりについて	先日視察に行ったみやき町では子育て支援のまち宣言をしている。「大きな可能性を秘めた「こどもたち」。今、大切にされなくてはならない「こどもたち」。かれらは、まもなくまちづくりの中で重要な役割をもち大きな影響力を持つようになります。かれらによって、まちの行く末が左右されるといっても過言ではないでしょう。今、「おとなたち」が真剣に考えて行動に移すため覚悟をもって、子育て・子育てに向き合う必要があります。未来へのかけがえのない希望であるこどもたちが健やかに成長できるまちづくりをめざすことをここに宣言します。」とある。教育施設の整備、放課後対策の専用施設、特別保育園（夜間保育）、子どもサポートステーション（緊急的に預かる）の整備などどうか、地域教育ネット、コミュニティスクールの連携強化。英語教育支援（英会話、英検）の充実など他の町にない施策を投じれば転入も増え町が活性すると思うがどうか質問します。	町長 教育長

質問者4 河内 賀寿

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
1. 小中学生の実用英語技能検定（英検）検定料を無料にできないか	8月の総務文教委員会の視察研修先、佐賀県基山町では、平成28年度から、小中学生の実用英語技能検定（英検）検定料が無料とのことだった。（1人につき年1回）。子どもたちの英語力及び学習意欲の向上を図ることが目的とのこと。無料化にすると、受検者数は2倍を超えたそう。さて、本町も同様に英検の無料化はできないか。また、漢字検定などほかの検定についてはどうか。	教育長
2. 公共施設老朽化による外壁はがれ対策は十分か	都会では老朽化したビルからのタイルなどの外壁はがれが問題になっているそう。ある日突然、頭上からの落下物で大ケガということはあってはならない。 本町の公共施設の老朽化による外壁はがれ対策は十分か。 ちなみに、ビルではないが、町民グラウンドの夜間照明の後の箱型設備はサビだらけだが突然の落下の危険はないか。	町長・教育長

質問者5 瀬石 公夫

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
1. 国民健康保険に税金を投入しては	平成27年度の全国の国民健康保険は2,843億円の赤字だった。国民健康保険はほかの健康保険に比べると、加入者の高齢化が進んでおり財政を厳しくしている。また、加入者の収入が低めのため保険料を上げにくく、毎年生じる赤字を市町村が税金で穴埋めしている。 平成30年度から、国民健康保険の運営は都道府県単位で行われることになるが、保険料の市町村格差は縮小しても、加入者の構成が変わるわけではなく、赤字体質は変わらないと思われる。 全国の多くの市町村が国民健康保険に税金を投入しており、本町も税金を繰り入れてはどうか、また県に移管された場合保険料は上がるのか下が	町長

	るのか尋ねる。	
2. 地方創生の進捗状況について	<p>平成29年1月1日時点の住民基本台帳に基づく人口動態調査によると、国内の人口は前年から30万8084人少ない1億2558万3658人で8年連続の減少。山口県は1万1192人少ない139万4042人で、田布施町は99人少ない1万5651人だった。</p> <p>41道府県が前年人口を下回り、東京は7万7400人増と東京圏への集中が進んでいる。</p> <p>地方創生を掲げて、人口減少対策や一極集中是正に取り組んでいるが、効果が今一つ見えない状況である。</p> <p>本町では、田布施町まち・ひと・しごと創生総合戦略（27年度～平成31年度）のアクションプランを作成し、「産業振興による雇用の創出」、「人材の定着・環流・移住の推進」、「結婚・出産・子育て環境の整備」等に取り組んでおり、5年計画の半分が過ぎたが何か成果が見えたか進捗状況を尋ねる。</p>	町長

質問者6 竹谷 和彦

※一問一答

質問事項	質問要旨	質問の相手
1. 青年男女に対する活動支援について	<p>田布施町は老人クラブの活動が非常に活発で元気な姿をよく見かけるが20歳代から30歳代の青年男女の姿が見えてこない。1980年代までは田布施町連合青年団が活発に活動されており、青年団活動を通じて結婚された方もおられると聞いている。私の記憶では、毎年3月末頃田布施中学校で文化祭を開催したり、8月には中学校のグラウンドで盆おどりや花火大会を主催されていた。</p> <p>町として老人クラブへの支援のような青年男女に対する措置は何か考えておられるのか。</p>	町長
2. 公共施設の整備手法(PFI)について	<p>先日、ここ5年間で目覚ましい発展を遂げている佐賀県のみやき町に視察に行き、みやき町の町長さんから色々と説明を受け深い感銘を受けた。</p> <p>本町でもPFIが実施できるかどうか今後、研究会や勉強会等を行う予定はあるか。</p>	町長
3. 田布施町体育センター敷地内の土俵について	<p>いつどういう目的で作られたものか。利用状況と今後の活用予定は。</p>	教育長